



# いずみ

No.47

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 16



《ぬくもり》

松本 純一

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 17 作者の言葉

「ぬくもり」というタイトルの母子像で、新築される産婦人科病院のために制作したものです。母の愛は深く、広く、そしてやさしい。記憶に残るかすかな匂いとぬくもりを手掛かりに、私の中にいる子供は、凜として立つことができるという母の思いを込めて…。このシリーズ、初期の頃と比べるとだんだん目が小さくなってきました。そのうちにただの点になり、消えてしまうのだろうか？少し不安です。  
(松本純一)

タイトル：「ぬくもり」  
設置場所：旭川市  
制作年：2009年  
素材：御影石ほか  
サイズ：W1380×D600×H1420 mm

## 連載 宮の森の四季 17

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 特別な鑑賞体験

学芸員 田中 千秋

本郷新記念札幌彫刻美術館の本館は、北海道を代表する建築家・田上義也によって設計されました。本郷の彫刻を展示するための空間は、タイル張りの床面や自然光を取り入れた大きな窓が特徴的であり、ホワイトキューブ状の美術館とは異なった魅力があります。展示作業を行う際は、当館ならではの空間の条件を考慮しながら展示構成を考えるため、なかなか一筋縄にはいきませんが、それもまた楽しいところです。

ところで、展示室の大きな窓は通常ブラインドで隠され、光が作品に影響しないようにしています。作品の状態を維持すると共に、展示の雰囲気を作り出すには、やはり暗い方が適しています。このブラインドを開けると、外の光が差し込みライトもいらないほどです。

しかし、いくらブラインドで遮光しても隙間からわずかに光が漏れます。その光は、天候によって作用され、晴れの日には輝く光が差し込み、曇りの日は控えめな落ち着いた光が差し込みます。中でも私がお勧めするのは雨の日です。雨の日の美術館は一段と静かに感じ、わずかに差し込む光は空間を緊張させます。静かに作品と向き合い物思いにふけるには理想的と言えるのです。

美術館での鑑賞体験は、作品を見ることはもちろんですが、それだけとは限りません。今日の天気や周囲の音など様々な要因が影響し、美術館の雰囲気はその時々で変わってくるのだと思います。是非、彫刻美術館に何度も足を運んで自分だけの特別な鑑賞体験をしてほしいと思います。

## エドウィン・ダン像とプリマヴェェラ

そのけ ひろこ  
園家 廣子(エドウィン・ダン記念館員)

札幌市南区真駒内のエドウィン・ダン記念公園に、公園名の由来であるエドウィン・ダンの銅像が建っている。右肩にフォーク、左肩に子羊を担ぎ、右足を前に踏み出して、いかにも若々しく活動的な姿は、ダンの仕事ぶりを彷彿とさせる。さらに、大小6面の台座にも、牧場開拓のさまざまな様子が刻まれている。

エドウィン・ダンは、1873年(明治6年)、農業、酪農指導者として米国から来日、真駒内に牧場を建設して「北海道酪農の父」と言われている。

ダン像の作者は峯孝。この作品で初めて作者を知った私は、他の間宮林蔵や町村敬貴像などから、骨太な男性的作風の彫刻家と思っていた。ところが、これらとは対照的な作品写真に出合い、目を奪われた。11年前のことだ。若い女性が、ぴったりした薄物を脱ごうと両腕を上げて、顔の半ばまで引き上げているポーズが、ため息がでるほど美しい「プリマヴェェラ」と題された作品で、本物を見たいと思ったが、当時、北海道文学界の重鎮で、気安く訪ねない澤田誠一氏(1920-2007年)の庭にあるという。

幸い、私の友人が澤田家と遠縁に当たり、時折この作家が友人のお父さん宅を訪れることを知り、そうした機会に紹介して頂いた。澤田氏は、私の願いを快く聞き入れ、すぐにご自宅へ案内してくださった。

広い庭内の木々が紅葉に色づく中、憧れの春の女神像は、しなやかに上体を伸ばして、初々しい息吹を放っていた。

この日、もう一つ思いがけない発見があった。澤田氏に会うため、初めて訪れた友人のお父さん宅で、大理石の壁に飾られた銅版レリーフに、思わず目が留まった。馬に乗った男性が左手に手綱、右手で小さなラッパを吹いている。これとまったく同じものが、ダン像台座の一面にある。何うと、札幌での峯孝展で購われたものということだった。

その翌年、このお父さんが亡くなられ、住居を改装するからと、友人夫妻がダン記念館を訪れて、その銅版レリーフを寄贈してくださった。

現在、レリーフは公園に面したダン像の見える出窓に展示してある。

## 本格的な劇場公開映画「茜色クラリネット」が完成するまで

中島 洋(シアター・キノ代表)

私たちシアターキノは、1992年に市民の皆さんの出資によって設立したミニシアターです。そのこともあって、ささやかでも社会貢献をできないかと考え、映像教育や地域上映、映画講座などの活動をするNPO法人「北海道コミュニティシネマ・札幌」を05年に作りました。その中心の一つが、子ども映画制作ワークショップでした。

中学生を対象として、企画、脚本作りから制作準備、撮影、編集、宣伝、上映まで、映画のすべてを約半年以上にわたるワークショップで体験していくものです。ただ、私たちは教育者ではないので、できることは「いい映画を作るにはどうすればいいか」をひたすら、一緒になって考え、知恵を絞り、実践していくことでした。その本気とプロと一緒に「ものづくり」が、中学生にとっては日常では味わえない文化的な体験として、強く、心と身体に残るものになっていったのではないかと思います。

また、撮影場所をあらかじめ決めておくのが、私たちの特色です。05年の初めての時は、モエレ沼公園のグランドオープンに合わせての企画で、観光名所のPR映画を作るより、その場で市民や子どもたちが楽しく過ごし、創造の場として活動していることこそがシティセールスになるのではないかと提案しました。中学生たちの自由な発想は、公園を魔法の学校に見立て、ゴミ処理の埋め立て地であることから、ゴミの妖精が出てきたりするユニークなものでした。その3年後が芸術の森、そして大通公園など、

札幌市の文化的財産や市民の憩いの場を舞台にしていきましたが、より地域の方々との交流の中で創造性も強くなるのではと、発寒や円山の商店街の皆さんとの協力によって作るようになり、それが作品の幅や質的な向上につながっていきました。その結果、2012年の作品「僕らの興味期限切れの夏」は、東京のキンダーフィルムフェスで部門グランプリを受賞するなど、高い評価を得て、選抜メンバーがソウル青少年映画祭に招待されていくまでになりました。

これらの実績をもとに、集大成として取り組んだのが、劇場公開を目指す長編映画「茜色クラリネット」でした。琴似地区の皆さんの資金集めからロケ協力まで、本当にたくさんのバックアップで、中高生20名と大人キャスト・スタッフ約30名が半年間、まさに本気で作り上げたのが本作です。その出来はぜひ、ご自身の目で確かめていただきたいのですが、カンヌ映画祭審査員特別賞を受賞した「そして父になる」の是枝裕和監督が、中高生にあって感激してコメントをくれました。

「中学生たちのまっすぐな視線で撮られたこの映像に触れると『いつのまにか自分も“大人病”にかかってしまったのではないか?』という不安に襲われる。映画について、人生について大切なことを思い出させてもらいました」

「茜色クラリネット」は3月22日からシアターキノで公開中

<http://k-yumecinema.com/>

## 古いコンクリート彫刻を守ろう

会 長 橋本 信夫

日本では広場や公園など、いたるところでコンクリート製の白い彫刻を目にします。戦後、日本経済が大きく発展し始めた1950年代、大型土木事業が全国的に興り、コンクリートの需要が飛躍的に高まりました。こうした中で東京では大手セメント会社が当時の新進気鋭の彫刻家にセメントを提供し、コンクリート彫刻展などの支援を行いました。

コンクリート製の彫刻は、ブロンズに比べて安く、作家自身が原型から設置までを一貫して手がけられることから全国的に広がりました。

この初期のコンクリート彫刻を制作した彫刻家に札幌出身の山内壮夫がいます。戦前、新制作派協会彫刻部の創設に関わり、また戦後は道展や全道展の開催に尽力するなど本道の芸術振興に大きな足跡を残しました。

現在、札幌市のコンクリート彫刻は15点ほど知られていますが、このうちの半数が山内の作品です。彫刻の素材としてコンクリートはブロンズに比べてもろく、せいぜい人の寿命程度の長さしか保てないのが欠点です。また、これらの制作は全国で1955年ころからの約10年間に集中し、その後、激減しました。

しかし、これまでコンクリート彫刻の実態調査は全国的にも極めて乏しく、老朽化防止や保全対策もほとんど不明のままです。

例えば円山動物園前には山内の初期コン

クリート像  
《よいこつ  
よいこ》  
(1952年)が  
置かれてい  
ます。動物好  
きに親しま



《よいこつよいこ》2012年撮影

れながら今年で62年目になりました。しかし、この間に十分な補修がなされなかったため、破損や剥落がひどく、今は見るに耐えない状況です。

これらのことから今年度、友の会は市内の各所に散在するコンクリート彫刻を視認調査し、サイズの測定、GPSによる位置確認、並びに、汚れ、剥落、亀裂、破損などの詳細な記録をデータベース化して、清掃、老朽化防止や保全などに役立てる予定です。

札幌市での調査結果は早急な対策を迫られている全国のコンクリート彫刻の補修・保全の参考資料としても大きく役立つでしょう。また、これらの調査資料は今後、彫刻鑑賞の手引き、美術教材、郷土史資料、観光資源など多岐にわたる分野で利用可能と思われる。

札幌の歴史を刻む美しい芸術作品を末永く後世に伝えるために、野外彫刻の美化と保全に惜しみなく力を注ぎ、守り続けることが草の根ボランティアの大きな目的で、この実現は札幌市と札幌市民に課せられた当然の責務なのではないでしょうか。

## 新しい年の活躍誓って

### 盛況！2014年札幌彫刻美術館友の会新年会開催

#### 花添えたチェロ、パンフルート演奏

友の会の2014年新年会が1月25日、札幌・京王プラザホテルで開かれ、華やいだ雰囲気の中で新しい年の活動を誓い合った。新年会には昨年の新入会員を含め50人ほどが参加した。

猪股岩男会員の司会で幕を開け、冒頭、橋本信夫会長が「健康第一で、目標に向かって頑張ろう」と挨拶。引き続き、「映像で振り返る2013年の友の会」として昨年の会の活動状況をスクリーンに映し出して一年を振り返った。

ついで、ゲストに迎えたチェロ奏者の小島盛史さん、パンフルートの横地太郎さんに加え、会員の細川房子さんがステージ上で熱演を繰り広げ、会を盛り上げた。小島さんは元札幌で活躍したチェリスト。この日は深みのある演奏で会場を魅了した。また、横地さんは本州勤務ながら以前から友の会と縁があり、昨年、札幌へ転勤となったことから再演となり、日ごろ聴く機会の少ないパンフルートの音色を響かせた。また、細川さんも加わって3人共演で演奏した「テネシーワルツ」は会場のオールドファンを喜ばせた。

そのあと、亀谷隆会員の乾杯の音頭で会食に移り、新会員の紹介とテーブルスピーチ、ジャンケンゲームなどを楽しみ、全員で「今日の日はさようなら」を合唱、大内和副会長が「今年もみんなの協力で山積する課題に挑戦しよう」と挨拶して会を閉じた。

[写真説明](上から)①重厚な響きを聴かせた小島さん②パンフルートの妙なる音色を奏でる横地さん③細川さんの熱唱も加わった3人の共演④フィナーレを飾った「今日の日はさようなら」の全員合唱



#### 札幌彫刻美術館友の会 2014 年度総会

◇日時:5月10日(土)13:30

◇会場:札幌市民ホール

<プログラム>

総会(13:30)

講演会(総会終了後)

## 外部機関から発表依頼相次ぐ

北海道芸術学会誌へ寄稿  
NORTH・シンポ 2014 参加

友の会が日ごろ続けている野外彫刻調査活動の実績などが外部機関から注目され、昨年暮れから原稿執筆や講演発表の依頼などが相次いだ。

北海道芸術学会から依頼されたのは昨年春、同学会の展示発表でパネル展示した「北海道の野外彫刻のデータベース化と活用について」の要旨執筆。原稿は橋本会長が図表などを織り込んで、道内の野外彫刻実態についてA4用紙2枚にまとめて1月に提出した。近刊の同学会紀要に掲載される。

第20回NORTH・インターネットシンポジウム2014は北海道地域ネットワーク協議会の主催で2月18、19の両日、北大学術交流会館で開かれた。同シンポに友の会が参加するのは今回で3回目。



初日の口演発表で奥井登代副会長が「北海道の野外彫刻の概況とクラウドコンピューティングに

よる野外彫刻の利用」と題して、友の会が日ごろ取り組んでいる野外彫刻調査の成果と今後の利用について図表などを交えて発表した。道内の野外彫刻の数や材質ほか詳細なデータ分析と野外彫刻地図としての活用状況などユニークな実践例として会場の関心を集めた。

(調査の概要は「北海道の野外彫刻データを読む」として「いずみ」44号に掲載)

## 紙コップキャンドルで参加

ゆきあかり in 中島公園

冬の札幌・中島公園を舞台に開かれる「ゆきあかり in 中島公園」が今年も2月7日から3日間催され、友の会は例年通り、紙コップキャンドルで参加した。

通りがかる人に呼びかけて、思い思いの夢や願い事を書いて



らい雪の壁に飾って公園の雪の夜を彩った。

連日、厳しい寒さが続いた中、特に夕方から夜にかけての活動に「ご苦労様」の声が寄せられていた。

会員2人が出版と陶芸展  
松岩さんが高学年向け絵本  
永喜多さんは陶芸展を計画

松岩さんが出版したのは高学年(小学5、6年)向けの絵本「おかあさん牛からのおくりもの」(A4変型、32頁、1700円+税)で北海道新聞社から3月26日に発行された。

酪農家が育てた牛からどのようにして牛乳や牛肉となり、みんなの口に入るのかを絵本にした。文



は松岩さん、絵は小清水町で酪農ヘルパーをしながら牛の絵を描いている富田美穂さん。

永喜多さんは陶芸展「さまざまな花器たち展」を7月8日から13日まで札幌・中央区のギャラリー大通美術館で開く計画をしている。7月10日に喜寿を迎えるのを記念しての展覧会。高さ30センチくらいの作品を中心に30数点。

退職のころから陶芸に親しみ、陶芸歴は20年ほど。5年前から手稲区の身障者施設で入所者に陶芸作成の手助けをするなどの活動も続けているほか、北大美術部OBで作る「くろゆり会」にも属して出品を重ねており、「私の陶芸制作の集大成」と開催に意欲を燃やしている。

## 事務局日誌

▼13年12月13日＝彫刻学習会(エルプラザ)▼26日＝上田札幌市長あて彫刻保全補修対策確立要請文提出(市文化部)▼14年1月9日＝1月定例役員会(エルプラザ)新年会準備、会報47号企画など▼25日＝2014年新年会(京王プラザH)約50人参加。小島盛史さん(チェロ)横地太郎さん(パンフルート)の演奏など▼2月8、9日＝ゆきあかりin中島公園に参加▼13日＝2月定例役員会(エルプラザ)総会準備など▼18日＝北海道インターネット協議会2014シンポジウム(北大学術交流センター)奥井副会長が道内野外彫刻の現況説明▼3月5日＝札幌市へ市民まちづくり助成金申請書提出

## 編集後記

▼インフルエンザの大流行、真冬日の連続—長かった冬も終わり、やっと春の息吹です▼今号では松岩さんの絵本出版、永喜多さんの陶芸展開催と、会員の嬉しいニュース届けることが出来ました。こうした会員の活動や動向をこれからもどしどし紹介したいと思います。積極的な情報提供をお願いします▼節目の50号まであと一息です。区切りにもふさわしい特集企画などアイデアを寄せてください。(大内)

## 札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.47

2014年4月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」47号 目次

自作自選17《ぬくもり》	松本純一 . . .	表紙
作者の言葉 . . . . .		2
宮の森の四季17「特別な鑑賞体験」	田中千秋 . . . . .	2
風見鶏「エドウィングダン像とプリマヴェーラ」	園家廣子 . . . . .	3
寄稿「茜色クラリネットが完成するまで」	中島 洋 . . . . .	4
寄稿「古いコンクリート彫刻を守ろう」	橋本信夫 . . . . .	5
友の会ニュース . . . . .		6-7
2014年友の会新年会 外部からの発表依頼相次ぐ 紙コップキャンドルで参加 松岩さん絵本出版 永喜多さん陶芸展計画		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか . . . . .		8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

■コレクション展「裸婦研究」 開催中～5月11日(日)

同時開催「In My Room」(展示室での若手彫刻家の個展)

▽更科結希

開催中 ～4月6日

▽町嶋真寿

4月8日～5月11日

■望月 健 個展

金属造形半世紀の軌跡

5月14日(水)～5月25日(日)

■「New Eyes 2014 Our place

～歩く・感じる・考える、私たちの生きる場所～」

6月7日(土)～9月28日(日)

(本展に先立ち、5月27日から6月6日まで公開制作)

### 記念館

■コレクション展「本郷新と春香山」 開催中 ～4月13日(日)

■コレクション展「本郷新と旅」 4月15日(火)～10月19日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>